

# SOS アジア世界遺産 「フィリピン・コルディエーラの棚田群」への支援を開始

## フィリピン基本情報

国名：フィリピン共和国  
首都：メトロ・マニラ  
国土：299,707 平方キロメートル  
(7,107 の島からなる)  
人口：約 8624 万人  
言語：公用語はタガログ語。ほか、地域ごとに約 80 の言語を持つ。



2000 年ともいわれる長い時を経て作り上げられてきた「文化的景観」の例として、1995 年、世界遺産リストに登録された「フィリピン・コルディエーラの棚田群」(フィリピン・ルソン島北部のコルディエーラ自治区イフガオ州 4 町 5 地区の棚田)。

しかし、近年、後継者不足による棚田の放棄や、高収入源である観光業や畑作への転換などにより、その文化的景観の維持が脅かされ、2001 年には「危機にさらされている世界遺産(危機遺産)」に登録されました。



日本ユネスコ協会連盟では、2005 年 4 月、イフガオの伝統的な稲作文化の保持に必要な知識を次世代に伝えることを目的に、調査を開始しました。イフガオ地方には、地域に根ざした稲作管理のほか、過去から伝わる行事や医療手法など、さまざまな伝統的知識が蓄積されています。しかし、現在では、若者の土地離れが進み、その知識を伝える後継者の不足が課題となっています。



棚田の修復 (写真提供：キアンガン町)

現在、支援プログラムの第一段階として、棚田の維持には伝統的な知識とそれを伝える仕組みが必要との考えから、私たちのカウンターパートである現地 NGO により、土地を離れた人びとの情報や彼らが持つ伝統的な知識の収集が始められています。

この情報収集がきっかけとなり、「近代的な農業に頼らず、イフガオに適した手法を受け継ぎ、昔から守り伝えられてきた伝統行事や歌、踊りなどのさまざまな知恵を伝承することで、若い人たちとともに地域を活性化させたい」とイフガオの人びとも考え方が変わってきました。

「日本の美しい棚田の写真を見たことがあるが、どのような優れた技術を使って、棚田を守っているのか教えてください」

「日本の子どもたちはいかにしてすばらしい伝統文化を学んでいるのですか？」

現地を訪れると、このような質問を矢継ぎ早にされることがよくあります。そのたびに、「日本も同じような問題を抱えていて…」と説明しますが、地域の歴史やアイデンティティを真剣に見直そうとしている彼らには、むしろ私たちの方が学ぶことが多いように感じるので



伝統的な舞踊（写真提供：キアンガン町）

今後とも、SOS アジア世界遺産へのご協力をお願いします。